

日 ASEAN スマートシティ・ネットワーク ハイレベル会合（10月8・9日）

- (1) 日時：令和元年10月8日(火)、9日(水)（11日(金)に視察を実施）
- (2) 場所：ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル(横浜市)
- (3) 主催：国土交通省（協力:外務省、総務省、経済産業省、環境省）
- (4) 議長：日本・国土交通省(栗田国土交通審議官)及びタイ運輸省(チャイワット次官)
※タイは2019年ASEAN議長国
- (5) 実施機関：(独)都市再生機構
- (6) 参加者：2日間合計 約800名
(日本側)
内閣官房(和泉内閣総理大臣補佐官 他)
国土交通省(御法川国土交通副大臣、栗田国土交通審議官、平井海外プロジェクト審議官 等)
経済産業省(牧原経済産業副大臣 他)、総務省(木村総務大臣政務官 他)、
環境省(八木環境大臣政務官 他)、(独)都市再生機構(中島理事長 他)、
(独)住宅金融支援機構(加藤理事長 他)、地方公共団体(清水さいたま市長、北村藤枝市長 他)
学識経験者、日本企業・関係団体 他

(ASEAN 側)

- ・ASEAN10カ国・ASEAN21都市の代表 約75名
タイ(共同議長国)、バンコク、チョンブリ、プーケット
ブルネイ、バンダルセリブガワン
カンボジア、プノンペン、シェムリアップ
インドネシア、バニユワンギ、ジャカルタ、マカッサル
ラオス、ルアンパバーン、ビエンチャン
マレーシア、ジョホールバル、クアラルンプール、クチン、サラワク州
(ミャンマー)、ヤンゴン、マンダレー、ネーピードー
フィリピン、セブ、ダバオ
シンガポール
ベトナム、ダナン
- ・ASEAN 事務局 等

(その他の国・都市)

バングラデシュ、モンゴル、ネパール、フィジー、スリランカ、サウジアラビア、ロシア、バルセロナ(スペイン)、トロント(カナダ)、シンシナティ(アメリカ) 等

(国際機関)

世界銀行、ADB、OECD、世界経済フォーラム 等

※分野別ワークショップ及びシンポジウムで使用した資料並びにワークショップでのスピーカーの情報は、以下のUR(当会合の実施機関)のホームページに掲載予定です。

<https://www.ur-net.go.jp/overseas/AseanSmartCityNetwork/HighLevelMeeting.html>

(7) 会議概要:

【10月8日(火)】

① オープニング

まず、「アジア・スマートシティ・ウィーク」のオープニングセレモニーにおいて、和泉洋人 内閣総理大臣補佐官、林文子 横浜市長、リロ ASEAN 事務次長、バロウ アジア開発銀行局長、宮崎成人 世界銀行駐日特別代表より開会挨拶がなされました。

その後、「日 ASEAN スマートシティ・ネットワーク ハイレベル会合」のオープニングセッションにおいて、共同議長である栗田 国土交通審議官及びチャイワット タイ運輸省次官より、同会合の開会挨拶を行いました。



アジア・スマートシティ・ウィーク
の記念撮影



和泉内閣総理大臣補佐官
による開会挨拶



共同議長(栗田国土交通審議官)
による開会挨拶

② 分野別ワークショップ(分科会)

我が国企業や自治体の技術・ノウハウ・経験の共有とともに、ASEAN 各都市の課題・ニーズを共有し、議論することを目的として、6つのテーマに分けて、分科会が開催されました。各分科会の結果は以下のとおりです。

・分科会1 水関連リスク

モデレーター: 東北大学 小野裕一教授 <事務局: 国土交通省総合政策局海外プロジェクト推進課>

水災害や水質等、水に関連したリスクを軽減するため最新の技術・知見をどのように活用し、持続可能な水循環を実現するかについて議論しました。ブルネイ(バンドルスリブガワン)、マレーシア(サラワク州クチン)、ミャンマー(ヤンゴン)が現状・課題や対策について発表しました。これに対し、横浜市、益田市((一社)益田サイバースmartシティ創造協議会)、危機管理型水位計運用協議会(パシフィックコンサルタンツ)、富士通より、日本における下水道や水位観測システム、防災情報システムに関する発表を行いました。



・分科会2 都市計画・開発

モデレーター: 千葉大学 村木美貴教授(公社日本都市計画学会) <事務局: 国土交通省都市局国際室>

都市開発をはじめとして、都市が抱える様々な課題解決策について議論しました。タイ(バンコク)、ミャンマー(ネーピードー)、ラオス(ビエンチャン)、マレーシア(ジョホールバル)からは、抱えている都市課題や、都市開発等のプロジェクト計画について発表しました。これに対し、柏市、UR から日本の都市開発・まちづくり事例について発表するとともに、OECD から、スマートシティにおける重要な視点等について発表を行いました。



・分科会3 交通(MaaS)

モデレーター:モビリティジャーナリスト 楠田悦子氏 <事務局:国土交通省モビリティサービス推進課>

MaaS 等の新たなモビリティサービスを含めた都市の交通のあり方について議論を行いました。カンボジア(プノンペン)、ミャンマー(マンダレー)、フィリピン(セブ)、タイ運輸省からは、交通渋滞や公共交通の効率性向上といった様々な課題及び解決のために計画しているプロジェクト等について発表を行いました。これに対し、日本の交通事業者である WILLER、みちのリホールディングスから、国内やアジアで実施している取組みについて発表を行い、国土交通省及び経済産業省も参加して、今後の交通分野における日本とASEANの協力可能性等について議論を行いました。



・分科会4 スマートライフ(ヘルスケア・教育・エネルギー)

モデレーター:東京大学 橋田浩一教授 <事務局:経済産業省貿易経済協力局総務課>

本分科会では3つのテーマが扱われ、有識者及び ASEAN 諸都市による議論がなされました。具体的には、ヘルスケアについて、筑波大学の久野譜也教授及び札幌市からの発表をもとに、インドネシア(マカッサル)とともに Walkable City の取組や健康データの連携について議論が行われました。EdTech(スマート教育)については、Quipper からフィリピンにおけるスマートフォン・タブレットを活用した取組みについて、現地の成果に基づいた発表が行われました。さらにエネルギーについては、タイ(チョンブリ)と TEPCO EP International から、工業団地内でのエネルギーマネジメントに関する実証等について発表が行われました。インドネシア(ジャカルタ)からは、ジャカルタ 4.0 というコンセプトに基づくスマートシティの取組や、スタートアップ企業との連携などについて発表が行われ、シンガポールも各テーマの議論に参加しました。



・分科会5 環境

モデレーター:地球環境戦略研究機関(IGES) 藤野純一プログラムディレクター

<事務局:環境省国際協力・環境インフラ戦略室>

環境的に持続可能な都市づくりの効果的な方策について議論しました。カンボジア(シェムリアップ)、ラオス(ルアンパバーン)からは廃棄物管理や污水対策等の課題のインプットがあり、川崎市から公害対策の経験・ノウハウ、クボタからは浄化槽による排水処理、JFEエンジニアリングからは廃棄物処理、ミネベアミツミより高効率の LED 街路ネットワークの事例等の共有がありました。また、インドネシア(バニュワンギ)からのエコツーリズムの実践、清水建設から太陽光発電等再エネを活用したソリューションの提示があり、最後にベトナム(ダナン)と横浜市からは両都市の連携の事例等が示され、各発表を元に、議論を行いました。



・分科会6 安全・安心

モデレーター:早稲田大学 三友仁志教授 <事務局:総務省国際戦略局国際協力課>

安全・安心をテーマに、見守りサービスなど、住民が安心して暮らせるような取組を含め、ICT の利活用によるスマートシティの構築に向けた議論を行いました。マレーシア(クアラルンプール)、フィリピン(ダバオ)、タイ(プーケット)から、監視カメラ等も活用した防犯の情報センター等やゴミ箱管理等の取組について発表がありました。これに対し、会津若松市、高松市、加古川市、NEC、NTT から、自治体の先進事例や、関連技術について発表があり、議論を行いました。



【10月9日(水)】

③ シンポジウム

御法川信英国土交通副大臣、牧原秀樹経済産業副大臣、木村弥生総務大臣政務官及び八木哲也環境大臣政務官より、シンポジウムの開会挨拶がなされました。

シンポジウムでは、モデレーターを中川 日本大学教授が務め、パネリストとして、ペン・ソパル カンボジア国土整備・都市化・建設省長官、エン・キエン・オング シンガポール センター・フォー・リバブルシティ局長、チャイワット タイ運輸省次官、清水 さいたま市長、北村 藤枝市長及び中島 UR理事長が登壇いたしました。日本側のパネリストからは、日本でのスマートシティの取組について紹介がなされ、ASEAN 側のパネリストからは、ASEAN で進められているスマートシティの取組の紹介とともに、日本が培ってきた経験・ノウハウの共有など、日本からの積極的な協力に対する期待が述べられました。



シンポジウム開会の記念撮影



パネリストによる取組の発表



パネルディスカッションの様子

④ 官民マッチングセッション

「日ASEANスマートシティ・ネットワーク官民協議会」(JASCA)会員のうち36の企業・団体がブースを出展し、ASEAN各国・各都市へのPR及び意見交換を実施いたしました。出展者は以下のとおりです。

＜メーカー、ソリューションプロバイダー＞

日立、富士通、NEC、横河ソリューションサービス、IHI、JFEエンジニアリング、SD グリーンエナジー、理研興業、ゼロ・サム、イトラスト、パスコ、フミン、酒井重工業、アジア航測、オサシ・テクノス、有明興業、みどり工学研究所、東建エンジニアリング、日本アンテナ、カワハラ技研、ミネベアミツミ

＜コンサル＞

日本工営、八千代エンジニアリング、応用地質、SD JET
パシフィックコンサルタンツ、KPMG

＜商社＞

双日

＜ゼネコン＞

竹中工務店

＜デベロッパー＞

三井不動産、羽田みらい開発

＜独立行政法人等＞

都市再生機構、新エネルギー・産業技術総合開発機構、
スマートコミュニティ・アライアンス

＜その他＞

日ASEANスマートシティ・ネットワーク官民協議会、スマートシティ官民連携プラットフォーム

※「日ASEANスマートシティ・ネットワーク官民協議会」(JASCA)の詳細については、以下のHPをご参照ください。

https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo07_hh_000544.html



参加者によるブースの訪問

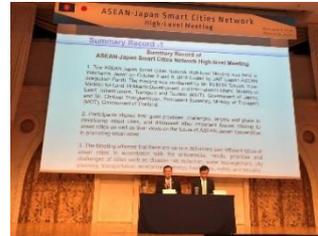
⑤ クロージングセッション

＜成果文書の採択＞（別紙2参照）

スマートシティにおける「課題オリエンティッド」や「全体最適」といった考え方の重要性とともに、「日ASEANスマートシティ・ネットワーク官民協議会」(JASCA)や関係団体等を通じた、日本の分野横断的・包括的な協力を歓迎し、まずはニーズ分析、解決策の調査等を実施していく旨及び次回会合の開催を含め、ASEANのスマートシティ推進への協力を継続する旨を確認いたしました。



共同議長による閉会挨拶



成果文書の採択

＜個別覚書への署名＞（別紙3参照）

会合期間中に、ASEAN 各都市等や日本の政府系機関・民間企業との間で今後の具体的な協力について会合が行われ、7つの覚書等の署名がなされました。なお、会合翌日に署名されたものを含めると計8つの覚書等が署名されております。



UR-ールアンパバーン市の
Minutes (議事録)



住宅金融支援機構-マレーシア国立
抵当会社のMOC

【10月11日(金)】

⑥ 視察ツアーの実施

・コース A: Jバイオフードリサイクル(神奈川県横浜市)

Jバイオフードリサイクルでは、食品廃棄物をバイオガスにリサイクルし、発電用の燃料として活用する仕組みの説明を受けた後、実際の施設を見学しました。



・コース B: 港北ニュータウン(神奈川県横浜市)

港北ニュータウンでは、市営地下鉄駅前広場やペDESTリアンデッキによる歩道の連続立体交差、地区内の緑道を骨格とした公園や民有地の斜面樹林などを連結させた「グリーンマトリックスシステム」を見学しました。



・コース C: 殿町キングスカイフロント(神奈川県川崎市)

殿町国際戦略拠点キングスカイフロントでは、ライフサイエンス・環境分野における世界最高水準の研究開発から新産業を創出する「国際戦略拠点」の形成が進んでおり、当該地区の開発経緯や水素関連施設についての講義を受けた後、多摩川に架設中の橋梁の現場を見学しました。

